

■佐藤久一 地方都市酒田で、先端的な映画館・フランス料理店開き、内外の一流人を惹き付ながらも、忘却された。

さとうきゅういち

海軍軍縮条約1930＝ 山形県酒田で、清酒醸造元{金久酒造}経営者佐藤久吉の長男に生まれる。祖母は豪農阿部家の出身。

満州事変・・・1931＝ 1歳：

父が家業の経営を義父に任せっきりにして、芸能・スポーツ事業や経済諸団体の会長等の道楽を続けるなか、幼少時から日本海の新鮮な魚介を味わいながら成長、

弟3人妹4人の8人兄弟となり、テニス好き父の薫陶受けた6人は後にテニスの名選手となって行く。

日中戦争始・1937＝ 7歳：

第二次大戦始1939＝ 9歳：

日米開戦・・・1941＝11歳：酒田商業に進学したが、兵学校に進むべく、酒田中学に転入。

年金+総武装 1944＝14歳：海軍兵学校を受験するも不合格、

敗戦・・・1945＝15歳：故郷酒田に疎開していた大数学者小倉金之助を突然訪問して教えを受けるが、敗戦とともに、勉学への意欲失い、父の経営する映画館{港座}に通いつめ、

極東裁判決・1948＝18歳：

三大事件・・・1949＝19歳：

朝鮮戦争始・1950＝20歳：父が買収したダンスホールを改装し、映画館{グリーン・ハウス}を開業するも不振で、
*日大芸術学部1年の時、父の要請で中退して帰郷、映画館{グリーン・ハウス}の支配人となる。知人で音響家の経営する{鶴岡座}で薫陶を受けた後、自ら上映作品を選定し、冊子{グリーンニュース}を無料で発行、定番となった「哀愁」を代表に、何れも大入りとなる。{港座}で館内放送していた美代子を見初め、

独立回復・・・1951＝21歳：

メデー事件・1952＝22歳：

結婚。土曜劇場・サンデー劇場や複数作品を割引上映するなど、次々新企画、
過労で倒れ結核の再発が判明して入院する間、身重の妻が重病となって手術、子を失い、以後、仕事分担とともに隙間風。映画館前を整備して広場にし、スクリーンを特設し、ニュース映画等を映写して人気、
映画館のトイレを改装すると、「雨に唄えば」以降、女性客が急増、
自衛隊発足・1954＝24歳：クリスマス・ナイトショウを実施し、この年ベストワンだった「禁じられた遊び」を上映。
以後も、さまざまなイベントを展開するとともに、映画作品セールスマンとの付き合いを楽しみ、

なべ底不況・1957＝27歳：

インスタントマン・1958＝28歳：

「菩提樹」「わが愛は終りなし」併映で記録的興行収入を上げ、地方都市の映画館経営者やセールスマンとの情報交換の場{昭和5年生まれ}うまの会}結成に参加、淀川長治・萩昌弘らの支援も受けるようになり、
切符売場をオープンにし、ロビーに喫茶店を設けると、地元文化人の溜まり場となり、音楽会も始める。
*「太陽がいっぱい」で、東京のロードショウと同時の上映に成功するに至る。土門きくと出会い不倫、
特別席シネサロンや新特別室を設置し好評、
御家族室も新設、{週刊朝日}に紹介され、全国に知られるようになるも、
*妻のみならず一族からも見放され、全てを讀って駆け落ち、上京。父の道楽で家業も没落。荻のアドバイスでオープン早々の日生会館営業部劇場課次長に迎えられ、劇場の凄さに見とれている間、きくとのトラブル、女性客からの接近や東京の殺伐さに滅入り、三島由紀夫に声をかけられて感動などするうち、

大学紛争始・1965＝35歳：

いざなぎ景気1966＝36歳：

美濃部都知事1967＝37歳：

かつがれて日生会館労組の初代委員長になったため、食堂課に左遷されると、料理の世界にのめり込み、
胃の痛みを覚えるなかうまい料理に奮闘するも、きくが死産すると、ボウリング場経営の誘いにのって、
女性社員らの思わぬ歓送を受け、退職して、きくと酒田に戻ると、市議会議長になった父が地元の要望で始めたフランス料理店経営を任せられ、日生から新米調理師太田政宏を誘って{レストラン樺}を開店。
きくとの間に長男が誕生。大阪の辻静雄を訪ね、太田らを毎夏辻料理専門学校に通わせて腕を磨かせ、
辻がフランスから一流シェフを招いて開いた講習会に出席、直接教えを受ける機会にも恵まれ、それをもとに、地元の魚介類などを用いたフランス風郷土料理を開拓して、評判が高まり、

石油ショック1973＝43歳：

角栄金脈辞任1974＝44歳：

グランドール事件1975＝45歳：

田中角栄逮捕1976＝46歳：

デパート清水屋から出店依頼され、{ル・ポットフー}を開店。{樺}はともに始めた小林元雄に任せる。
酒田の知人に案内されて訪れた開高健が感嘆し、伝え聞いた丸谷オーが{文藝春秋}のエッセーで紹介、
オープンした酒田東急イン求められ、清水屋残したまま、同名で開店し移る。その間の軋轢で胃痛進む。
結婚披露宴での生演奏がヒット。{グリーン・ハウス}の漏電が原因で、酒田大火となり、宴席自粛で経営に打撃を受けるなか、山形新聞が数年前から定期的に開催していたクラシック演奏会を酒田に誘致、黒沼ユリ子招いてスタート、再開発やホテルラッシュで経営難が進むなか、店を改装、
清水屋{ル・ポットフー}は閉店となるも、演奏会には巖本真理カルテットを招き、{ル・ポットフー}では女性クラシック歌手のレギュラー出演させ、
宿願のフランスに渡り、かつて教え受けたシェフらとも再会、ヨーロッパ食べ歩きの旅をする。
パート社員鈴木新菜に目をつけ、レストランのマダム役に仕立てあげ、山口瞳・草柳大蔵と石井好子・志ん朝・{四季の味}編集長など、有名人が訪れ、マスコミも殺到するようになるも、深刻な赤字に陥り、
*この年まで、クラシック演奏会は続けられたが、

・・・1981＝51歳：

中曽根内閣・1982＝52歳：

オーナーから追及されるなどして、ストレスから逃れるべく、酒びたりとなり、

・・・1984＝54歳：

ジャンボ機墜落1985＝55歳：

激しい腹痛に襲われ、救急入院、十二指腸潰瘍と判明、
オーナーが直接経営にタッチするようになって、

リクルート事件・1988＝58歳：

昭和天皇没・1989＝59歳：

55年体制終・1993＝63歳：

鈴木新菜、太田政宏が相次いで退職。
この年、{港座}が経営破綻。
3億円に昇った借金を弟俊二が完済した時点で、{ル・ポットフー}から追放されるに至る。{樺}経営続ける小林元雄を頼り、{荘内振興}の顧問となり、和食{巳之助}での仕事に携わるも消沈、{レストラン樺}に戻る決心をしたが、見る影もなくなり、

オウム(サソ)事件1995＝65歳：

・・・1996＝66歳：

金融破綻・・・1997＝67歳：

東山温泉へ社員旅行から帰ると、体調を崩し、
新年会も欠席、年末には、仕入れ先の店で倒れ入院、末期の食道癌と判明し、
没した。